



CONTENTS

16年目の新たな装い.....	01
ぷれいす東京 2009年度総会・活動報告会 開催..	02
シンポジウム	
「HIV陽性告知後に何が起きているのか？」開催.....	03
NHK教育テレビのHIV特集	
「ハートをつなごう」と「ETV特集」.....	05
セミナー開催！「オトナの女的・現役セックスワーカーに教 えてもらおう！セーフターセックス テクニック」	06
MSMスタッフワークショップ開催.....	07
NLGR2010 (Nagoya Lesbian & Gay Revolution 2010).....	07
部門報告(2010年4～6月).....	08
新人ボランティア合同研修の開催について	12

16年目の新たな装い

池上 千寿子

10年一昔といいますが、なんと16年も経ってしまいました。いやはや速いものです。16年...16年前に生まれた赤ちゃんはじつに高校生になる！ イヤー、すごい。

なにを数えているのかと言えば、ぷれいす東京の年齢なのです。1994年、下落合の1LDKで産声を上げたとき、あるのは机と電話だけでした。6歳で1人前のNPO法人になったときには高田馬場4丁目に転居、電話&PCに囲まれキーボードに釘付けでした。そしてNPO10年目の昨年度、16歳にしてなんと体重が2倍になってしまいました。いえ、ダイエットが必要ということではありません。

10年じみちんやってきたHIV陽性者のための相談事業が昨年度から厚生労働省の事業委託をうけて、ようやく欠食児童(この言葉ご存知ですか?)から脱出できたのです。体重が増えてようやく人並みの体力がついてきたというべきでしょうか。

法人をとりまく環境もビシビシ変わっています。任意のボランティア団体からNPO法人への道が拓けたのもつかの間、NPO法人についてのルールもどんどん整備されてきました。ま、当然なのですけど。それで、多方面の専門家のお力が必要になります。とくに財務管理、税務申告、総務管理などなど、シロートのにわか勉強や付け焼き刃じゃ歯が立たない。ああ、なんとかせねば。で、今年度からお迎えした強力3人トリオをご紹介します。

監事として行政書士&税理士の
常住豊(つねずみゆたか)さん

顧問税理士として
岡田純(おかだじゅん)さん

移転準備室長として
野老功(とくろいさお)さん

年齢不問。豊富なご経験と円満なるお人柄プラスぷれいすへの深いご理解という3大パワーを備えたお三方で3x3=9の効力を期待！ スタッフ人脈のご縁でつながれました。どうぞよろしく。

ちょっとまって、監事や税理士はわかるけど、移転準備室長ってなに！?

はい、ごもっともです。体重が2倍になってとうぜん風袋も大きくなって、やはり新たな洋服が必要になりました。このさい、デザイナーブランドのオーダーメイドにするのかって？ ああ、それは夢のまた夢ですねー。残念ながらもちろんレンタル&中古で、既成服に身体をあわせる、という努力もやはり必要のようです。しかも電話相談に各種プログラムの運営などの日常業務がめじろおしですから、着替えのタイミングもけっこう難しい。年度末の大忙しの時期にあわてて着替えるとパンツをはきそこなうなんて失態もしかねません。無理は禁物。で、この秋の頃、10月中頃にできればいいかなあと考えています。

そう、つまり秋には新たな場所で事務所をオープンする予定なのです。同じ町内のご近所です。みなさまにはご迷惑をかけないよう心がけます。

どうぞよろしく。

それにつけてもこの10年、変わらないのが世間の冷風。ワールドカップで南アフリカ国旗はおなじみになったようですが、かの地のHIV罹患率を知っていますか？

こういうと、エイズはアフリカの貧困の問題ですよ、としたり顔でかえされそうです。とんでもない。「ウイルスに国境はありません。人も選びません」といいつづけてきたけれど、着替えたらもう少しセクシーなこともいえるようになりたいものです。

ぷれいす東京 2009年度総会・活動報告会 開催

恒例の活動報告会が5月29日に豊島区立生活産業プラザにて行われました。

今年は数年ぶりに夜間の開催となりましたが、スタッフ・参加者・ゲストなど合わせて72名の参加で会場はほぼ満席、盛況の開催となりました。

今年の総会、活動報告会は、会場確保の都合で数年ぶりに夜間の開催となりましたが、会場はほぼ満席、盛況のうちに終わることができました。また、当日は表紙のデザインが一新されロゴマークがあしらわれた、新しい年間活動報告書も配布されました。

総会では、新しい監事の方と移転準備室長の紹介が行われ、活動報告会では、各部門のスタッフが、それぞれのカラーを出しながら2009年度を振り返っての報告を行いました。今年のトークコーナーでは、ホームレスの支援を行っている[特定非営利活動法人 自立生活サポートセンター・もやい]のうてつあきこさんをゲストに迎えて、女性であり保健師であるうてつさんが、もやいに参加するきっかけから、参加する中での難しさや、自分への気付き、そしてホームレスの当事者とともに運営している「サロン・ド・カフェこもれび」の立ち上げから評判の焙煎コーヒーができるまでを、とてもわかりやすくお話し下さいました。中でも、HIV陽性者の方とのエピソード、おじさん達といっしょにカフェを運営して行く中での難しさや楽しさなどの様々なエピソードがきけ、とてもおもしろく、時間が短く感じられました。(報告：牧原)



年間活動報告書表紙

「より安心して生活できる社会の実現のために」 金城
ボランティアとしてぷれいす東京の活動に関わるようになってから1年。初めて活動報告会に参加しました。資料とすり合わせしながら報告を聞いていく中で深く印象に残ったのは、HIVの陽性反応が出た人やその周囲の人向けの相談サービスのことでした。

厚生労働省が、事業委託の一環としてフリーダイヤルによるHIVの相談窓口を設けました。これにより、広範囲をフォローできるようになった上、経済的に苦しい人でも以前より容易に相談することが可能となりました。また、各地域同士のネットワークが強まっただけでなく、外国語の専門相談窓口も開設されました。スタッフの方は対応に追われ、多忙な一年だったとは思いますが、この努力により、多くの方が救われることになったことでしょう。私は、強い感銘を受けました。

また、大木教授の報告の中に、地域における支援格差があるという内容がありました。関係行政とNPOネットワークが連携して、あらゆる地域で公平な支援を受けられるような環境を整備することができれば、HIV陽性反応者の方がより安心して生活できる体制が出来上



相談部門の報告(左から牧原、生島、佐藤)

がると思います。これは今後の課題かつ、大きな命題であると感じました。

「“もやいコーヒー”をいただきながら

活動報告会を想起して」 JOICE(製薬会社勤務)

製薬会社勤務ですので、日頃はHIV診療に携わる医療従事者の方々と病院内で面談させていただくことが多いのですが、患者さんを直接支援している方々にお目にかかれて、その具体的な活動内容やご熱心な姿勢を直接知ることができて、見聞が広まると同時に良い刺激を受けました。部門報告では患者さんやご家族等からの電話相談件数の増加・電話相談内容、ボランティアによる訪問サポートなどを知ることができましたし、患者さん達が必要としているニーズが何であるかを考えることが必要だと感じました。今後は、医薬品を提供する立場として、少しでも患者さん・医療従事者の方々に、より有益な情報提供を適切な時期に適切な内容を発信できるように更に努めなければいけないと感じ入りました。

皆様の活動を思い起こして、「もやい」で焙煎されたコーヒーをいただきました。

「ぷれいす東京の活動報告会に参加して」 nobu

今回は二回目の参加になります。ぷれいす東京の活動については人づてに聞いていて、それまでも参加しようとは思っていましたが、なかなか踏ん切りが付きませんでした。自分は薬害エイズで、性感染の方たちとあまりつながりがなくて、距離を感じていたのかもしれない。

今回、沢山の人が活動しているのにびっくりしました。自分も陽性者です。告知を受けてから17年が過ぎました。その時の事は今も鮮明に覚えています。当時は死の病でしたから。しかし現在も発病はしていません。偶然にも治療薬が飲み続けられたからでしょう。

これからは少しでも自分も活動に協力出来ればと思います。

「当事者と向き合い連携を進めるということ」

行政関係者

ぷれいす東京2009年度総会・活動報告会に参加してきました。

各部門の活動報告や自立生活サポートセンター「もやい」のうてつあきこさんによる組織の起源的なお話など興味深く伺いました。コーヒー焙煎プロジェクトのお話では、プロジェクトに参加した当事者の方との微笑ましくも熱い議論の様子が目に浮かぶようでした。



ゲストのうてつあきこさん(右)

当事者と共に考え、時には心をぶつけあうことで(一方向からの支援ではなく) 個の価値を見つけることの手助けこそが大切ではないかと感じました。

HIV・エイズの予防や病気の広がりへの警鐘については、国はもとより、地域の行政や大小様々なボランティアが取り組んでいます。取り組みの規模や当事者との距離感は異なっても、それぞれの不得意なところを補うような連携が大切です。例えば HIV感染者・エイズ患者等の相談支援事業やコミュニティセンター事業が、中央官庁からの委託になったように、連携を進めていくことで、多くの課題のうち、ひとつずつでも解決できるのではないのでしょうか。

現代には、心身の障がいだけでなく、生活上でも課題を抱えている方がいます。なかなか自身のこととして受け止めることは容易ではありませんが、まずは当事者と向き合い、現状を正しく理解することから始めてみようと思っています。

「報告会で受けた刺激。」

感染告知から7年。最近は、数か月に一回の通院のみで、しかも診察時間の大半は世間話や変わらない検査結果の話で終始してしまう。安定していることには越したことはないが、HIVという病気の今を俯瞰してみたくなり、活動報告会の話の聴いてみたかったのだ。

今回の報告会で一番印象に残ったキーワードは、ゲストのうてつさんの「人間関係の貧困」。今話題の無縁社会にも通じ、僕らセクシャルマイノリティも陥りやすい罠のはず。HIVの拡



満員の活動報告会

くまぞー

大も、そんな貧困がそっと後押ししているのかもしれない。

そんな中で、ネストのような交流の場やパディなどの活動が、どれだけ、利用者にとって有効で心強いものか、改めて思う。ネット社会の出現で情報こそ手に入れやすくなったが、リアルな活動の重要性を理解するには、実践を通してでしか得られないだろう、活き活きとした言葉で紡がれた活動報告を聴けば、充分だった。

自分は感染者の blogger という立場から、もっと声を発し、ぶれいす東京さんを含め、リアルな活動をプッシュしていけたら...よい刺激を受けた報告会であった。

「報告会に参加して感じたこと」 はち(K大学看護学科)

今回は、学校で講義を下さった矢島さんご紹介のもと、ぶれいす東京活動報告会に参加させて頂きました。

報告内容が多いため、報告会は秒刻みのスケジュールのもと進行されていました。一番前にはタイムキーパー、会場に鳴り響くアラーム。ぶれいす東京に参加したのが初めてなのも相まり、開始当初は、わたしまでハラハラしていました(笑)。

しかし、そんな中ふと気付いたことがありました。それは、ビリビリした空気のなかで、笑い声や、参加者の表情がとても温かかったことです。緊張していたため、報告内容はあまり頭に入ってこなかったのですが(すみません)、ぶれいす東京は落ち着ける団体なんだろうなあ、と感じることが出来ました。

参加して良かったです、ありがとうございました！



受付の様子

シンポジウム「HIV陽性告知後に何が起きているのか？」開催

ぶれいす東京とJaNP+が協働して(協賛:鳥居薬品株式会社) HIV陽性告知をテーマとした2年がかりのプロジェクトを進めています。その一環として4月29日に津田ホール(東京都渋谷区)にてシンポジウムを開催しました。100名近くの参加があり会場は満席で熱気あふれたシンポジウムとなりました。

HIV陽性者の告知前後をテーマとして行ったインタビュー調査の中間報告や、医療や検査、保健、支援といったそれぞれの立場のパネリストから講演がありました。これらの講演やパネルディスカッション、会場からの発言などから、検査を受けるまでの経緯や準備性、環境といった受検者側の多様性と、経験値の差や体制の違いといった検査や医療を提供する側の多様性の対比がなされたのが興味深い点でした。HIVに携わるそれぞれの異なる立場の人同士がネットワークを持ち、連携し「垣根を越えて」取り組んでいくことの重要性はもちろん、その難しさと可能性が垣間見えた貴重な機会となりました。

以下、当日のプログラムとシンポジウム会場に参加していた一般参加者の方々からの感想文をお届けします。

(報告:矢島)

プログラム

講演・パネリスト 出演順・敬称略

「HIV陽性告知前後の現状はどのようなものか

~中間報告:面接調査結果から~

井上洋士(放送大学 慢性看護学・健康社会学 教授)

「告知の現場から」

小島弘敬(東京都南新宿検査・相談室長)

「保健所等のHIV陽性支援に関する調査から」

大木幸子(杏林大学 保健学部 看護学科 教授)

「診療の現場から」

山元泰之(東京医科大学病院 臨床検査医学科 臨床准教授)

「NGOでの取り組み:陽性告知後のより良いスタートのために」

矢島嵩(ぶれいす東京 新陽性者PGMコーディネーター)

司会:長谷川博史(日本HIV陽性者ネットワーク・JaNP+ 代表)

「電話相談員が『陽性告知後の話』を聞いて」 小野 浩美

ぶれいす東京ホットラインで感染不安の電話相談をしています。陽性者からの相談はホットラインではあまりありませんが、治療や陽性者の状況を聞かれることも多く、一般知識だけでなく現状を肌で感じておく必要を常々思っています。

今回のシンポジウムでは、トータルな流れの中で個々の現場が抱えるホットな話を聞くことができ、とても勉強になりました。現場の報告として出されたたくさんの事実にも関心をひかれましたが、提供する側、受ける側それぞれにある多様性、問題が複合的であることを、具体的な話の中で少しつかめた気がします。

ホットラインは、感染不安を持ち相談してきた人が、HIV問題に向き合う1つの入り口と考えていますが、今回話を聞いた上で、相談してくる人に対して、より必要な対応をしていくことの難しさを、改めて実感しています。考えるきっかけになったことで、参加してよかったと思っています。

「関心の高さに驚きました」 36才 男性

ぶれいす東京のWebサイトでシンポジウムを知り、職場の休みに開催された事もあり拝見させて頂きました。会場に入り最初に感じた事は、開始される時刻には7割近くの席が埋まっており各々の事情はさて置き、コレだけ沢山シンポジウムを拝見する方が多いと言う事は今HIVへの関心が自分が思っていた以上に高いのでは、と言うところでした。

また自分もHIVポジティブであり、感染、発症、発覚から時間が余り経っていない為、HIVに関する事はすべてに関心がありました。シンポジウムの中では特に医療的立場からの講話は、私生活では決して多くないHIVの情報の中ではさらにレアな情報であった為、興味深い内容でした。

個人的にはHIVの最新医療状況と今後の医療の展望などがあたらお聞きしたかったです。もしもそんな情報が聞けたら、いつか完治をと願う事への励みになればと思います。

次回この様なシンポジウムがあつたら是非また拝見させて頂きたいです。ありがとうございました。

「シンポジウムに参加をして」 あるいは

このようなシンポジウムに参加をして、いつも思うのは、当事者の参加が必要だということです。聴衆としてはもちろん、できれば前に立つパネリストとしても。当事者がいる・いないで、説得力が大きく変わってくるように思います。今回、それをとくに強く感じたのは、会場から「感染を広めないように、陽性者にも訴えていきたい」という発言があったときです。ちょっとした違和感を持ちながら私自身何も

言えなかったのですが、すかさずパネリストの一人である当事者の方が反論しました。会場からの発言の主旨はそうではないと思いますが、私たち陽性者は感染源として扱われることが



事例報告をする井上さん

(それが事実とわかっていても)何より悲しいのです。私たち陽性者は、感染を広げない対策が十分にできているとは言えないかもしれません。知識も不足しているかもしれません。でも、「あなたは感染源だから、気をつけなさい」という言葉に、心を動かされ、努力しようと思う人がいるのでしょうか。正論が、必ずしも人の心に訴え、行動につながるとは思えないのです。これは、検査にも言えると思います。検査を受ける人が、必要性を感じ、またそれ以上に自分自身のメリットを感じなければ、検査は広がらないと思います。

人それぞれ背景にあるものが違っていても、「HIV感染を広めない」「一人でも多く検査を受けて」という思いは、参加者全員同じであるはずで、それなら、その成果を出すためにどのように訴えていけばよいのか、私たち陽性者も含めて、もっと客観的、かつ冷静に考えるときがきたのではないかと考えています。

「陽性者支援と感染予防」 加藤 真吾

HIV感染告知のあり方や、感染者に対する告知後のケアについて多方面からの取り組みについて勉強する機会を与えていただき大変ありがとうございました。

シンポジストの方々の発表の後、フロアから二つの点について質問させていただきました。一つは、陽性者にセーフター・セックスを勧める理由としてパートナーへの感染予防が挙げられなかったことへの疑問でした。「あなたの健康のために」と説明した方が受け入れてもらいやすいとの回答がありました。しかし、「相手のことより自分の方が大事」という偏ったイメージで陽性者全体を捉えてしまうことにならないでしょうか。自己決定権の尊重には正しい情報の提供が必要であるということに抵触する恐れもあります。

もう一つは、陽性者のパートナーに対する検査推奨について支援者の間でどのような議論がなされているかという質問でした。私自身は、保健所等での陽性者への対応は医療機関に繋げることを最優先にすべきであり、パートナーへの検査推奨は、医療機関で陽性者と医療者の間の信頼関係ができ、陽性者のおかれている状況が把握できた後でよいのではないかと考えています。米国CDCのガイドラインにあるように、保健局の職員が年に一回、感染者のパートナーにHIV検査を勧めるということが文字通り実施されたならば、陽性者のスティグマを憎悪させ、リスクの高い人々の受検行動にも影響を与えることになるのではないのでしょうか。もちろん、パートナーへの検査推奨はパートナーの健康を守るために非常に重要な課題です。支援者や当事者の皆さんからパートナー検査のあり方について提言していただければと思います。

シンポジウムでは、検査相談の現場での誤解や偏見に基づく不適切な対応が紹介されました。司会の長谷川氏が最後におっしゃっていたように、HIV検査相談をより受けやすく、陽性者のためになるようにするため、検査相談のあり方などを議論する場に当事者の方が参加していただくことが重要だと思いました。私が関係しております検査体制研究班でそのような場が設けることができると考えています。

(慶應義塾大学医学部専任講師/厚生労働省科学研究費補助金「HIV検査相談体制の充実と活用に関する研究」研究代表者)

「ひとりの人間として」

ラリー

大木幸子さんのお話が印象に残りました。保健所での相談支援の話で、プレカウンセリングにおいて「セックスの内容ではなく健康問題に注目する」「オープンに話すオープンさを押し付けない」という具体的なお話は、とても素晴らしく感じました。セクシャルヘルスや孤独といった問題に対して陽性者の立場で、人間的な感覚だと思います。

私事ですが、私のパートナーはHIV陽性です。付き合い前にHIVを知ってはいましたが、それはあくまで「知識として」でしかなかったのだと痛感しています。恥ずべきことですが、HIV陽性者をウィルスの「宿主」ではなく、泣いたり怒ったりする一人の人間だということを、自分のパートナーを通してでなければ実感できなかったのです。私自身が陽性であった可能性もあるはずなのに、です。私の問題は無関心にありました。

このシンポジウムで私が得たものは、HIV告知後に陽性者が直面するさまざまな問題があり、それはそのまま周囲の人が抱える問題でもあるということ。そしてHIVを一人一人が直面するものとして人間的に捉えること以外に、この問題の解決はありえないということです。

「公的部門の今後の大胆な行動に期待」

宮島 謙介

「ウチでは診れない」、「異動のために長く関われない」、「当事者福祉の目線VS社会防衛目線の齟齬」であったり、感染告知後の現実生活を保健ワーカーがよく知らなかったりという現況が各パネリストから如実に状況提供された今回のシンポジウムだった。

治療生活の選択肢が限られる地方に対する大都市の有利性も、それぞれの病院や保健所や団体が定点で孤軍奮闘するばかりであるために、十分生かされてはいないようだ。

保健ワーカーは感染告知後の治療生活を、ユーザーの個人史と地域資源とを織り交ぜて理解し改善していくべきであるという目標が私の頭に浮かんだのだが、とりわけ保健所職員さんにはその立場を生かしてこの課題に取り組んでももらいたいと願う。なぜなら公的部門が時に大胆かつ効果的に地平を拡げていかれるのを目撃した経験があるからである。私的部門の特にHIV、セクシュアリティや移民の当事者スタッフが、目に見えない差別への意識に動けないところにさっと切り込んでいける強みが保健所職員にはあると思うのだ。

(臨床心理士。現在しらかば診療所とSHIPにて心理カウンセリングとHIV検査前後カウンセリングに従事中。)

NHK教育テレビのHIV特集

「ハートをつなごう」と「ETV特集」

NHK教育テレビで、HIVをテーマにした2つの番組、「ハートをつなごう」(5月31日～6月2日 3夜連続午後8時)「ETV特集」(7月4日 午後10時)が制作・放送されました。ぷれいす東京が企画当初から協力しています。



「ハートをつなごう」より。左からJaNP+の高久さん、生島、大阪医療センターの下司さん

「番組制作を通じて感じたメディアの責任」

NHK文化福祉番組部 ディレクター 今村 裕治

今回、HIVをテーマに番組を制作しようと考えたきっかけは、2年前にさかのぼります。「ゲイ/レズビアン」をテーマにした番組を立ち上げる際、同性愛をテーマに番組を作ることには大きな壁があると言われていました。常套句は、「社会のコンセンサスができていない」——しかし、コンセンサスとは、メディアの人間、当事者、周囲の人たち、一人一人が日々更新していくものなのだというのを、番組を制作しながら当事者の皆さんに教えてもらいました。

そんな中、ゲイコミュニティでのHIVの活動について知り、自然な流れで取材を始めました。ぷれいす東京や、JaNP+など様々な団体の方、そして多くの陽性者の皆さんの協力で取材はスムーズに進み、それは私にとって大きな驚きでした。なぜこんなに皆さんが熱心に協力してくださるのに、HIV陽性者の日常を描く番組は作られていないのか？ 31歳の一視聴者でもある私にとって、テレビの中のHIVとは、海外の映像とアーティストの派手なライブ映像...これがほぼ全てでした。勿論、陽性者の方がテレビに登場することは、大きな覚悟を伴うことですし、難しい局面もありました。それでも多くの方が出演してくださいました。

メディアとは媒体です。陽性者の日常を知らない人と陽性者をつなぐ役割を果たすためのボールは、もう私たちの方に投げられていたのです。私の役割はただそのボールを

視聴者の皆さんに投げかえしていくことだけでした。

「HIVをもっている人もそうじゃない人も僕らはもう一緒に生きている」——このフレーズを社会のコンセンサスにしていけるのか？ それは、陽性者の皆さんの決死の覚悟でもなく、サポートする団体の皆さんの今以上の熱意でもなく、それをつなぐメディアである私たちの「責任」の側にもう委ねられているのだと思います。

「NHKへの取材協力、放送、その後」

生島 嗣

メディアの取材協力依頼の多くは、彼らが欲しい筋書きに沿ったものだ。ぷれいす東京の相談を利用する人の8割以上は男性同士のセックスで感染した男性だが、そんな状況を見捨て、「異性間の性行為で感染した女性を紹介して欲しい」「母子感染で感染した子どもの取材がしたい」といったものが多かった。理解に苦しむような取材や編集をされ抗議をしたこともある。そんな難しさを超え、テレビで番組になったことが過去にも何度かあったのだが、信頼関係を築くのは容易ではない。

ぷれいす東京は、Rainbow Ringなどの団体といっしょに、LIVING TOGETHER計画というキャンペーンを続けてきた。これは、HIV陽性者や周囲の人達の声を手記を通して伝えることで、人々の偏ったイメージを変えるためのアクションだ。2007年からは、戦略研究のプロジェクトとして、TOKYO FMとのコラボレーションもスタートした。このような取り組みの中で、多くの陽性者、パートナー、家族が参加協力してくれたが、すべての文章が

書いた本人の使用許諾を得た上で放送されている。どのような使われ方をするかによって意味が変わってしまい、本意でないことが起き得るからである。

そして、今回のNHKの取材だ。NHKへの協力の追い風になったポイントがいくつかある。

1. LGBTに関する番組制作の実践で、プライバシー配慮への理解と対処能力があった。
2. NPOと当事者の信頼関係とその枠組みを尊重した上で取材を行う姿勢があった。

まず、局側に企画書を出してもらい、ぶれいす東京内部のコンセンサスを得た上で、情報提供や他団体の紹介を行い、予備取材の段階で、セクシュアリティ、性別、年代など多様なHIV陽性者の声を聞いてもらったり、現在のHIV医療体制の成り立ちや薬害被害者についての認識を持ってもらったりした。そして、取材を受けるかどうかという本人からの相談なども含めてぶれいす東京がかかわり、その後にはじめて本人と担当ディレクターが取材に進むという段取りである。

そして、「ハートをつなごう」で30分枠が3日間。「ETV特集」として90分の番組が生まれ、放映された。「ハートをつなごう」では、HIV陽性者としてLIFE 東海のシンヤさん、女性のかれんさん、活動をともにしている仲間たちや友だちが取材を受けたり、JaNP+の高久さん、洋子さんがスタジオ収録にコメンテーターとして参加した。「ETV特集」では、いくさんが当事者活動や支援活動で活躍する場面が撮影され、G-menというゲイ雑誌のリレー

連載をしているユウジさんが取材を受けた。

シンヤさん、高久さん、いくさん、ユウジさんは顔を出しての放送を了解した。ユウジさんのパートナーは心配しつつも、応援してくれていた



「ETV特集」ではホットラインのミーティングも！左から3番目がいくさん。

という。ご両親はご本人のことを心配して、顔を出しての出演には反対であったという。

今回、多くのHIV陽性者や周囲の人が勇気を持ってカメラの前に立った。その行為にエンパワーされたとの声が多く届いた。何が自分にできるのかと考え、新たな一歩を踏み出した人もいる。放送を見てぶれいす東京へ連絡をした多くのHIV陽性者、パートナー、家族がいる。放映された直後に開催された「もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)」では、陽性者である子ども、夫と、普段は話さないできたHIVというテーマについて話す機会になったこと、茶の間で一緒にテレビを見ることができたなどの感想があった。

改めて思うことは、取材を受けた人たちの多くは、テレビ出演をしても変わらぬ人間関係をすでに手にしている人達であったように思う。HIVと共により良く生きる人たちが増えてこそ成り立つ取り組みだったのだと、改めて実感した。

セミナー開催！「オトナの女的・現役セックスワーカーに 教えてもらおう！セーファーセックス テクニック」

5月30日に、ふぉーていーで、20～30代の女性を対象にしたセミナーを開催、19名の参加がありました。もっとハッピーにセックスするためのテクニックを現役セックスワーカーに教えてもらおう！という企画です。

今回の講師は、現役風俗嬢兼風俗嬢講師の水嶋かおりんさん。前半はSTDの症例の写真とSTD名をマッチングさせるゲームなどを通して、STDについて学びました。後半はセーファーセックス・テクニック悩み相談会。事前に参加者か



STDの症例の写真とSTD名をマッチングさせるゲーム

ら寄せられた悩みや質問にかおりんが答えてくれました。たとえば「コンドームをつけてうまく言えない」という悩みには、口でコンドームをつける方法をかおりんに実演してもらい、それをみんなで練習したり、雰囲気壊さずにコンドームを使うための提案の仕方を教えてもらったり。かおりんから素敵なテクニックを伝授された後は、みんなで意見&情報交換。自分もためしてみたいテクニックやセーファーセックスを実践するためのアイデアなどを話し合いました。

また、コンドームなどの展示コーナーを設置したところ、予想以上に好評で、休憩時間中にいろんな種類のコンドームを触ったり、オーガニックローションをなめた

り、ワイワイ盛り上がりました。

参加した方からは「リアルで実践的なアドバイスを聞いて良かった」「普段話せないセックスのことをみんなでオープンに語り合えた」などの感想をいただきました。女性がセックスについて話し合える場が少ないことやこのような場をつくることの必要性を強く感じました。かおりんの実践的な講義内容が好評で、第2弾を期待する声も多く聞かれました。(報告：ユムラ)

「スタッフとして参加してみて」

ゆうこ

今回初めてスタッフとして参加させていただきました。セミナーの参加者は積極的な方が多く、STDとその写真を一致させるゲームやディスカッション中に意見が多く交わされ笑顔も見られました。中でも盛り上がったのが、かおりんさんの口でコンドームを付ける実演。そして「したくない時にうまく断る方法」として多種多様な意見が交わされ、私自身もとても勉強になりました。

女性同士、友達間であっても普段はなかなか話しくいこともあり、こうした場を通してセーファーセックスについて一人一人が疑問に思っていることをシェアし、考える場を今後も大切にしたいと思いました。

MSMスタッフワークショップ開催

6月20日に、ぶれいす東京のゲイ・バイセクシュアルのスタッフによるワークショップが開催されました。「エイズ予防のための戦略研究」で行われたバーアンケートの報告と質疑応答、そしてグループに分かれてのワークショップが行われ、Gフレだけでなく普段ほかの部門で活動しているスタッフを交えて、19名の参加がありました。

「ワークショップ報告」

かなめ

2009年に新人ボランティア合同研修に参加し、Gay Friends for AIDS や事務作業のお手伝いをたまにさせていただいていましたが、なかなか他部門の方と一緒に何かをするという機会もなかったので参加できてよかったと思います。

バーアンケートの発表と、活発な質疑応答、グループごとの「ぶれいす東京」としてどのような事が出来るかの検討・発表が行なわれた。アンケート結果でわかった地域性と年齢層で得たSTI予防行動の傾向と、ゲイ活動の動向などやアンケートでは見えない他の人の意見が大変参考になりました。

マンパワーや予算には限界がありますが、MSM という大まかなくくりではなく、細かくターゲットを絞ったアプローチを行ってみたい。ボランティアスタッフからの提案が行える場があればいいなと思いました。

合同研修終了後はボランティアスタッフ同士はあまり交流がないのでMSMだけではなく、全体を対象にしたワークショップ等の開催も期待をしています。

「Gフレ・ミーティングに参加してみた」

岡村 直人

今回、初めてGフレ主催のミーティングに参加しました。パディとして登録はしているものの、他のグループの方たちとの接点はあまりなかったので、「ちょっと行ってみ

ようかなあ」という気持ちで参加を決めました。

都内各所や横浜にあるバーで実施したHIV/AIDSに関する調査について、担当者の方から具体的にバーで協力してもらった際の状況などを含め直接話を聞き、結果の数値の持つ意味合いを具体的に知り、それについて他の参加者と話し合えた点は良かったです。こういう機会が増えればいいな、と思います。

また、小グループに分かれての話し合いの中でも焦点となった「なぜ50代以上のMSMの間でコンドームの使用率が低いのか」という問題については色々と考えさせられました。予防啓発が行き届いていないのか、今まで使用してこなかった習慣はそう簡単には変えられないのか、など様々な意見が出ましたが、若者向けだけではない対策の必要性も改めて浮き彫りにしたと思います。以前、池上代表が仰っていた「子供に歯磨きの必要性を説くように、予防の必要性も繰り返し説き続けることが大切だ」との言葉を思い出しました。自戒の意味も含めて、地道に続けていくしかないな、との考えを新たにしました。

このミーティングに参加したことがきっかけとなり、上野や浅草方面で行うアウトリーチに参加しないかとのお誘いを受け、これからはパディ以外の活動も通じて細く長くぶれいす東京と関わっていければいいなと考えています。

NLGR2010(Nagoya Lesbian & Gay Revolution 2010)

6月5日～6日に名古屋でNLGRが開催されました。アウトリーチの経験の少ない新しいスタッフを中心としたメンバーで毎年ブースを運営してきたGay Friends for AIDSは、今年は地元の陽性者団体であるLIFE東海との合同でブースを出展しました。「ハートをつなごう」の放送直後だったこともあり、手記集を中心に多くの人の関心を集めました。

「NLGR2010でのアウトリーチ。」

ひさし

個人的には2回目のNLGRで、陽性者の手記やHIVの基礎知識集の展示・配布を行いました。NLGRは元々HIV予防啓発イベントとして開催され、今年で10回目。東海地区・愛媛・横浜・大阪・台湾(?)などからのHIV関連ブースやステージでのイベント、HIV検査が企画されており、振り返れば必ずHIVの情報が目に付くくらい存在感がありました。HIVについてちゃんと説明できるだろうかと不安でしたが、「手記です」と言っただけで「あ、読みたい!」と返ってくる来場者の関心の高さに驚きました。

お祭りとして楽しんでいる人々には、HIVは少し堅い内容で、どちらかというところと取っ付きにくそうに感じていましたが、共同出展・LIFE東海の手品やぶれいす東

京のHIV基礎知識イラスト配布とともに、ブース内のスタッフがすかさず声をかける連係プレーで、キッカケを作ることで気楽に立ち寄りてもらえたと思います。また、他のHIV予防啓発ブースを見ても、アンケートやブース前でのパンフ配布など色々工夫しており、アウトリーチではちゃんとぶれいす東京の活動を紹介することも大事だが、まずは気楽に見てもらえる雰囲気作りも大切だと感じました。



今回の参加スタッフ

部門報告

(2010年4～6月)



ホットライン

エイズ電話相談 ぶれいす東京および東京都委託)

相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	4月	5月	6月
日 数(日)	4	5	4
総 時 間(時間)	16	20	16
相談員数(延べ人)	6	7.5	5
相談件数(件)	35	34	43
うち(男性)	30	26	33
(女性)	5	8	10
(不明)	0	0	0
陽性者相談	0	0	0
要確認相談	0	1	0
1日平均(件)	8.8	6.8	10.8

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	4月	5月	6月
日 数(日)	13	14	12
総 時 間(時間)	39	42	36
相談員数(延べ人)	36	37.5	32
相談件数(件)	229	223	224
うち(男性)	170	177	187
(女性)	59	46	35
(不明)	0	0	2
陽性者相談	0	0	3
要確認相談	1	0	0
1日平均(件)	17.6	15.9	18.7

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

4月	18日	世話人会(7名)	スタッフミーティング(21名)
	29日	シンポジウム「HIV陽性告知後に何が起きているのか？」(14名)	
5月	7日	東京都電話相談連絡会(3名)	
	14日	世話人会(7名)	スタッフミーティング(19名)
6月	18日	東京都電話相談連絡会(3名)	
	20日	世話人会(4名)	スタッフミーティング(18名)

この3ヶ月は相談件数も安定していた。また、スタッフも安定した活動状況で、特に大きな課題はなかった。陽性者・要確認の相談は上記通りだが、陽性者周囲の相談は、ぶれいすでは2件、東京都は6件もあり、陽性者関係の相談が増えている感じです。(報告：佐藤)



Peer Empowerment Program

ミーティング他活動状況()内は出席人数

3月	19日	セミナー打ち合わせ@田町 (4名+かおりんさん)
4月	20日	セミナー打ち合わせ@田町(5名)
5月	16日	セミナー打ち合わせ@池袋 (3名+かおりんさん)
	30日	セミナー『オトナの女的・現役セックス ワーカーに教えてもらおう！セーフター セックス テクニック』開催@池袋：参 加者19名(5名 詳しくは6ページ)

昨年の研修以降、新しくスタッフに加わったメンバーが数名いるので、今後、ファシリテーターの研修を行いたいと考えています。(報告：ユムラ)



バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

第1木曜	11:00-	(奇数月は第1土曜日)
第3木曜	18:30-	
4/15	3人	5/20 5人
6/17	4人	

個別のミーティング(4月～6月) 7件

利用者数

7カ所の医療機関に通院中、もしくは入院中の13名の方に17名のバディスタッフを派遣

活動内容(2010年6月末現在)

派遣継続中	17件
在宅訪問	10件
病室訪問	1件
派遣休止	5件
検討中	1件

4月～6月中の動き

- ・新規派遣 1件(通訳での派遣依頼)
- ・派遣調整 3件

今後のミーティングの日程

午前ミーティング	11:00-13:00
8/5(木)	9/4(土) 10/7(木)
午後ミーティング	18:30-20:30
8/19(木)	9/16(木) 10/21(木)

木曜日の午前ミーティングは参加者がいる場合に開催しています。参加される方はお手数ですが、事前にご連絡ください。

パディの現場から

4月に通訳での派遣依頼がたまたま2件続けてありました。通訳での派遣依頼は、対応できるパディがいる / いない、ということもありますが、久々の依頼となりました。また、必要があれば今後も継続していく予定です。

5月に完成した活動報告書に昨年度の活動実績が報告されていますので、ぜひみなさま手にとってご覧ください。また、報告会にも、パディスタッフの参加が多くありました。参加いただきありがとうございました。

(報告：牧原)



ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)	(*ファシリテーターなど)
4月	25日	122名	(6名)	(5名)
5月	23日	130名	(7名)	(11名)
6月	26日	207名	(6名)	(7名)

(*はファシリテーター、web NEST運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

カフェ・ネスト

4月：4回 42名 5月：3回 30名
6月：5回 76名

ピア・グループ・ミーティング(PGM)

・新陽性者PGM第53期(参加者6名)
4/8 4/22 5/6(修了)

・新陽性者PGM第54期(参加者6名)
6/5 6/19

・陰性パートナー・ミーティング
5/8(4名)

・ミドル・ミーティング
4/10(16名) 5/8(12名) 6/12(13名)

・もめんの会(HIV/AIDSを支える母親の会)
6/3(7名)

学習会/イベント

・4/29 シンポジウム
「HIV陽性告知後に何が起きているのか？」
日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス
/ ぶれいす東京共催
(詳細P.3-5)

・5/24 ストレスとうまくつきあうためのワーク
第11期-1(8名)

・6/28 ストレスとうまくつきあうためのワーク
第11期-2(7名)

ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

・新陽性者PGMファシリテーター・ミーティング
5/10(7名、5名)

・web NEST運営委員会
4/23(3名、2名) 5/21(3名、2名)
6/18(3名、2名)

ネスト・ニュースレター

4/19 4月号発行 5/17 5月号発行
6/21 6月号発行

(報告：はらだ)



Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動 <http://gf.ptokyo.com>

Gay Friends for AIDS 電話相談

4月 11件 (1日平均2.75件)
5月 7件 (1日平均1.75件)
6月 9件 (1日平均2.25件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

4月：0件 5月：0件 6月：0件

NLGR2010に参加

今年も名古屋で開催されたNLGRにブース参加しました。LIFE東海さんとの合同ブースと言う初めての試みでしたが、やや風が強かったものの晴天に恵まれた2日間となりました。

詳細は7ページのレポートをご覧ください。

MSMスタッフのワークショップを開催

Gフレだけでなくほかの部門のゲイ・バイセクシュアル男性スタッフを交えたワークショップを開催しました。

初めての試みでしたが参加者も多く、参加者からも半年に1回くらいやりたいという声があがるほどでした。

詳細は7ページのレポートをご覧ください。

(報告：sakura)



HIV陽性者への相談サービス

相談実績2010年4～6月

	4月	5月	6月
電話による相談	112	112	136
対面による相談	67	63	85
E-mailによる相談等	125	104	112
うち新規相談	20	19	26
メール新規は含まず			

4～6月の新規相談者の属性(N=65)

陽性者： 42人(男性：41 女性：1)
パートナー(元)：10人(男性：8 女性：2)
家族： 6人(男性：2 女性：4)
その他： 3人(男性：2 女性：1)
専門家： 4人(男性：1 女性：3)

その他には判定保留、友人も含む

4～6月新規相談者の情報源(N=65)

WEB(携帯含)	24件	クリニック	1件
陽性者の情報	9件	医師	1件
冊子・パンフレット等	5件	パートナー	1件
電話相談	3件	家族	1件
友人	2件	以前から知っていた	1件
拠点病院	2件	テレビ	1件
看護師	2件	その他医療従事者	1件
(コーディネーター含む)			
カウンセラー	2件	不明	8件
保健所/検査所	1件		

4～6月新規相談の内容(N=65)

【ミーティング/ネスト利用等】

- ・PGM問い合わせから相談へ。
- ・東京近郊に在住し通院中。PGM参加希望。
- ・最近告知を受け、母にカミングアウトした。母がもめんの会参加希望。
- ・感染判明から1ヶ月で服薬中。ミドルミーティング参加希望。
- ・他の陽性者に誘われて来所。ネストオリエンテーション。
- ・病院にあった資料をみてフリースペース(ネスト)を利用希望。
- ・PGM問い合わせから相談へ。傷病手当書類作成で「HIV」と記載して欲しくない。どうしたらよいか。
- ・陰性パートナーミーティング希望。陽性パートナーから紹介された。
- ・保健所で告知を受けた。
- ・昨日検査所で判明。PGM希望。他の陽性者と話してみたい。

【ぶれいす東京への参加、サービス利用】

- ・ぶれいす東京の活動を知りたい。集まる人のセクシュアリティは？[北海道/東北]
- ・半年前に陽性と判明。相談できる相手が欲しい。相手は女性ではなくつつこんだ話ができる人希望。
- ・外国人で感染判明から10年以上。ボランティア希望。
- ・面談希望で連絡。
- ・友人を通じてぶれいすを知る。感染して1年経過するがなかなか連絡できずにいた。
- ・誰かと話したくて連絡をした。感染は数年前。現在つき合っている人に告知するか迷っている。
- ・服薬するようになったため、いろいろ知りたい。[東海]
- ・以前、相談員とメールでやり取りしたことがある。今回テレビを見て連絡。
- ・姉から。数日前に家族から陽性と告知。ネットで調べてもわからないため連絡した。
- ・もともとパンフレットをみてぶれいすのことは知っていた。今回テレビを見て連絡。
- ・冊子送付希望の連絡。[九州/沖縄]
- ・感染判明から未投薬。他の人がどうしているのか気になり連絡。
- ・陽性者の友人から紹介されて来所。近郊の大学病院の対応がわるいため病院を転院したい。

【検査や告知】

- ・春に陽性の結果を受け取った。今後どうしたらいいのかわかっている。
- ・保健所でこれから通院する病院を選んでくださいといわれたが分からなかったため相談した。
- ・保健所で判定保留がでて、他でも再検査。陽性と判明。健康保険のことが聞きたい。

【人間関係】

- ・パートナーが陽性と判明。自分は陰性だった。今は相手のことが信じられない。[近畿]
- ・新しいパートナーが陽性。自分は陰性。どのようにサポートしていったらよいか。[近畿]
- ・SNSで知り合った陽性者が医療につながっていないらしい。どうしたらよいか。[九州/沖縄]
- ・パートナーが外国人。現在海外で治療しているが、日本に呼び寄せるか迷っている。
- ・病院で陽性と判明。結婚を控えているがどうしたらよいか。[近畿]
- ・つき合っている人からHIVということを知らされた。今後どうつき合っていけばよいか。[東海]
- ・パートナーが陽性だとわかった。自分が感染していないかすごく不安。
- ・パートナー候補から陽性と通知。どのようにお付き合い(SEX、キス)したらよいか。[近畿]
- ・父より。息子と妻が先にぶれいすを利用。自分ももっと早く利用できたらよかったと思う。
- ・パートナーが去年陽性と判明。生活していて問題となることあるか気になり相談。[近畿]

【心理的なこと】

- ・感染が判ったばかり。明日家族が入院している病院に来る。どうしよう！とひどく混乱している。

【医療など】

- ・アジア系外国人。今回日本に派遣される前に検査をしたら陽性。今後はどうしたらよいか。
- ・妻から。夫が陽性者。SEXの最後にコンドームが破れた。どうすればよいか。

【生活や福祉】

- ・保健所での検査で陽性と判明。家族と同居のため感染が不安。今後のことを相談したい。[近畿]
- ・気になる行為があつて保健所で検査をしたら陽性と判明。行き先がみえずに不安。
- ・役所に身障者手帳の申請で行くが、プライバシーについて心配になり相談した。
- ・肺炎になり入院。検査の結果陽性と判明。退院後、不安になりぶれいすに連絡。
- ・父から。本人が自立支援で治療開始したが、期限がきている様子。どうしたらよいか。[近畿]
- ・姉から。弟が東京の病院に入院している。退院予定。どうしたらよいか。(2件)[東海、中国/四国]
- ・身障者手帳を取得したら4級だった。役所からも3級

の状態ではないかと言われた。

- ・就労のこと、SEXのこと、生活のことなどいろいろなことについて相談したい。
- ・献血で感染が判明。生活に関することの相談。
- ・感染判明は去年。現在、傷病手当受給中。手当が切れる前に職場復帰を考えたい。
- ・2-3月にSEXのあった相手から陽性と通知。精液を飲んだが感染の可能性はあるか。
- ・公務員の付加給付金について知りたい。[東海]
- ・1年以上前に感染が判明し、服薬中。SEXについて聞きたい。

【就労】

- ・パートナーの入院がきっかけで自分も陽性と判明。リストラにあったため就労の相談がしたい。
- ・上司から。従業員がHIV+。就業にあたり職場が対応しなくてはならないことがあるか。[近畿]
- ・HIVのことで困っていることはないが、就労すると障害者手帳申請等できなくなるのか不安。
- ・就労について。具体的に面接を受けるため、その準備の相談として連絡。
- ・去年から入退院を繰り返し、今年の検査で陽性と判明。就労相談で連絡。[中国/四国]
- ・陽性と判ってから数年。今年から服薬。ハローワークにて障害者枠で仕事を探している。

【専門家】

- ・勤め先の精神科で新病棟を開設予定。意見を聞きたい。[Dr.、Ns.より]

【その他】

- ・海外のHIVの状況について知りたい。[海外]
- ・知り合いが陽性と判明。自暴自棄になり無防備なSEXをしている。陽性者同士のリスクは？
(報告：牧原/福原/生島/山本/福長/神原)



研究部門

厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策研究事業)

「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」

(研究代表：生島 嗣)

- ・平成21年度総括・分担研究報告書を発行し、Webサイトで公開しています(http://www.chiiki-shien.jp/resource.html#a_H21hokoku)
- ・研究班の最終年となる本年度の研究計画等を討議する班会議を行い(4/25) また、地域におけるHIV陽性者支援の準備性の構成要素を検討する班内ワークショップを実施しました(6/27)
- ・東京労働局によるハローワークの新任次長向け研修で、HIV陽性者の就労および就労支援の準備性向上に関する講演を行いました(5/24)
- ・昨年度より制作している支援者向け研修ビデオの追加

コンテンツとして、池上によるセクシュアル・ヘルス/ライツに関する講義を撮影し(6/12)、パッケージ化へ向けて準備中です。

(報告：大槻)

エイズ予防のための戦略研究(研究リーダー：市川誠一) MSM首都圏グループ

- ・エイズ発症予防キャンペーン「できる！」キャンペーンを6月より開始しました。ポスター、リーフレットやキャンペーンwebサイト PC版、mobile版を展開しています。このキャンペーンのKick offとして、本グループの活動報告・意見交換会を東京都庁で実施しました(5/7)。



6月-7月用のリーフレットの表紙

- ・HIV検査に関わる保健師研修会を東京都(6/11)、千葉県(6/18)、神奈川県(7/2)との協働で実施しました。また、冊子「2010年度版 あんしん HIV検査サーチ」を6月に発行しています。
- ・バーのマスター・スタッフ対象の情報誌TOMARIGI7号を6月、発行しました。
- ・2010年度のMEN-Doキャンペーン、携帯電話アンケートを7月より開始。詳細についてはキャンペーンwebサイト上(<http://www.real-it.net/survey/>)で紹介しています。

(報告：岩橋)

MSM京阪神グループ

「陽性者サポートプロジェクト関西POSP」

- ・POSP電話相談
4月 6件 (元パートナー：1、感染不安ほか：3)
5月 2件 (対象外：1、陽性者本人：1)
6月 2件 (陽性者本人：1、陽性者のパートナー：1)
相談員(研修者含め)でカンファレンス実施中。

・ひよっこクラブ

第3期(6/20、7/4、7/18) 参加：4名。
振り返りミーティングは7月27日。

- ・PCサイトは4月28日にリニューアル。携帯サイトも5月14日にアップ。
- ・4月4日POSP活動報告会(市川氏、プログラムのメンバー、生島/矢島、チャームの青木氏が参加)
- ・関西版たんぼぼ作成会議(大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、POSPメンバー)で定期開催。
- ・戦略研究後のプログラム運営について、市川リーダー、運営メンバー、CHARMと協議中。

(報告：生島)

新人ボランティア合同研修の開催について

ぶれいす東京では、HIV/AIDSのケアと予防に取り組んでいます。感染の広がりに伴い、HIV陽性だとわかった人、感染していないか不安な人、HIV/AIDSのことについて知りたい人、身近に陽性とわかった人がいる人など、様々な方からのアクセスがあり、サービスを提供しています。しかし、対応にあたってのスタッフが慢性的に不足しています。

あなたもぶれいす東京で、HIV/AIDSに関わるボランティアを、自分にできる範囲で、できることから、私たちと一緒に活動してみませんか？

今回募集するのは下記のボランティアです。

- ・ HIV陽性者のサポート活動「パディ」
- ・ エイズ電話相談の相談活動「ホットライン」
- ・ オトナの女性向け予防啓発活動「Peer Empowerment Program」
- ・ ゲイ向け予防啓発活動「Gay Friends for AIDS」
- ・ 事務作業補助、他

オリエンテーション

【日時】

2010年9月11日(土)14:00 ~ 16:00

(受付は13:45 ~)

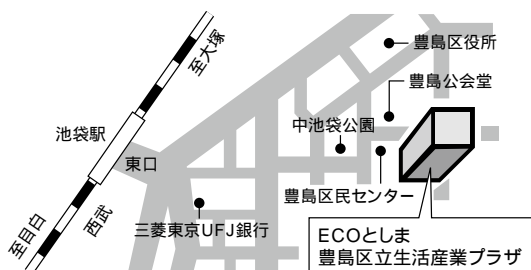
オリエンテーションに参加希望の方は必ず事前にメールか電話で事務所までお申し込み下さい。

【会場】

豊島区立生活産業プラザ「ECO としま」多目的ホール(8F)
東京都豊島区東池袋1-20-15 (池袋駅東口より徒歩7分)

【当日のお問い合わせ先】

ぶれいす東京携帯電話：080-5387-8341(13:00 ~)



興味のある方は、まずオリエンテーションにご参加下さい。性別、年齢、セクシュアリティ、活動経験の有無は問いません。どなたでも参加できますので、事前にメールか電話でオリエンテーションの参加の申し込みをお願いします。

活動に参加する・しないは、オリエンテーション終了後に決めてもかまいません。ただし、参加を希望される場合は、その後行われる3日間の基礎研修を受講し、修了後1年間活動に必ず参加できる方とさせていただきます。研修では、多彩な講師陣の個性的な講義や多様な参加者でのワークショップを開催する予定です。お楽しみに。

研修日程

9月20日(月・祝)

9月23日(木・祝)

9月26日(日) (各日10:00 ~ 17:00を予定)

会場や時間等の詳細はオリエンテーションにて説明します。研修に参加したいけど、オリエンテーションに参加できない方は一度ご相談下さい。



2009年の研修会でのひとこま

問い合わせ・お申し込み

特定非営利活動法人 ぶれいす東京
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204
TEL 03-3361-8964 FAX 03-3361-8835
(受付時間 平日12:00 ~ 19:00)
E-mail info@ptokyo.com
URL: http://www.ptokyo.com
(担当 牧原)

編集後記

- ・ 心の鍵をあまくする季節...夏ですね。まっ、季節に関係なく、いつもハートは開いています！ 開くということが受け入れることになるのかなと実感する日々です。(こんどう)
- ・ 移転のための会議が定期的なが持たれている。それは、ぶれいす東京の今後を考える時でもある。私たちの新たな進化にご期待ください。(いくしま)
- ・ スイカとトウモロコシ、どちらも食べ方に個性が出ます。僕とは言えば「カブトムシも寄って来ない」と笑われるほどですが、思いのまま食べちらかすのもまた好ましく。(やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス204
TEL：03-3361-8964(月-金 12:00 ~ 19:00)
FAX：03-3361-8835
E-mail：info@ptokyo.com
ぶれいす東京 HP：http://www.ptokyo.com/
Gay Friends for AIDS：http://gf.ptokyo.com/
web NEST：http://web-nest.ptokyo.com/